

No. 8

2009年5月10日
PAF 絵画教室
0942-32-7970



PAF 通信

<http://www.psychicartf823.com>

発行者
木塚忠広
〒830-0023
久留米市中央町 13-6

概念くずしⅡ

写実の扉を開くと面白いと書きましたが、開かないままでも、絵は描けるのです。ピカソは、古典絵画で育ち、印象派を駆け抜け、現代に至った人だから、写実もキュビズムもやったんですが、現代のアーティストの中には写実も遠近法も無縁のところまで仕事をしている人もたくさん居るようです。

日本の美術は、明治以降、ヨーロッパの美術を全面的に受け入れたので、ルネッサンスの遠近法や写実主義に偏った価値観で美術を観ようとするようです。でも、世界に目を向ければ、アフリカ、インド、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、東洋とそれぞれの地域でそれぞれの美術が、豊饒に展開されていたようです。そのようなことを前提にしながら、今からの概念くずしⅡのお話を聞いて下さい。

絵を描くとき、誰でも描き易い方法で描いていると思うのです。つまり、その人が持ち合わせた概念で描いている訳です。分かり易く言えば、犬や猫の顔は正面から、体は側面から、人物は正面から靴は側面等と、描き易い、説明し易いと云う観点からそのような方法を取るんだと思います。古代エジプト美術の壁画にも、このような動物や人物の表現がありますが、それは、ほとんど文字のような使われ方だったので、そのようになったようです。このように、絵を描くと云う行為は、自己表現と同時に、意味の伝達と云う機能も含んでいるので、共通言語としての概念画になるのです。つまり、文章表現する人が、たくさんのボキャブラリーを持っているように、画家は、たくさんの概念を持っているのです。

ここで、今更の告白ですが、PAF 絵画教室のこども達に対する僕の役割は、大まかに言えば、「概念くずし」と「写実への誘い」

だと云えるかも知れません。5, 6才の描画活動の停滞期に効果的な「概念くずし」を、固定化し古びた概念に対する刺激策と云うように、積極的に解釈すれば、年齢を問わない、永久に有効な方法と云えるのではないのでしょうか。つまり、7, 8, 9, 10、…才と「概念くずし」は、ずっと続くことになる訳です。



手の彫刻

ちょっと前に制作した、手の彫刻についてお話しします。あれは、陶芸用の粘土で出来ています。最初の計画では、窯で焼く積もりだったのですが、粘土の制作の過程で空気を閉じこめると、焼き上げる時に窯の中で爆発するので、そのままお返ししました。でも、焼かない粘土は脆いので、壊れている人は、修理しますので持ってきて下さい。

この手は、最初にパーを作って、それぞれの形にしていったので、幼稚園児も比較的簡単にリアルな手を作ることが出来ました。表面の塗装は、ブロンズで出来たロダンの手のようにしようと思って、黒にしました。

先ほど画家は、たくさんの概念を持っていると書きましたが、絵を描くことが好きだから、何枚も何枚も描いているのです。因みに、芸大を受験する人は、一体の石膏像をグルッと取り巻きの20枚×10体で200枚くらいデッサンをするそうです。僕は、リアル馬鹿にならないように、50枚くらいにしました。(さて、次回は、たくさんの概念を手に入れる方法と、写実の扉を叩く手のお話です。)